明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年十二月二十八日內務省許可（廿日發行）

大正六年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百三十七號

婦人衛生雜誌

第三百三十七號目次

謹告

本會の大正七年新年會は一月二十一日(第三月曜日)午後一時よりお茶の水高等女學校作樂館に於て開催致し衛生講話並に講談等の餘興も有之筈につき何卒會員諸姉の奮て御出席あらむことを

大正六年十二月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月　　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的本會の目的は汎く婦女子をして人生の康福を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續在末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身會員特別及通常の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計　第二編輯出版、第三庶務とす[illegible]員の件

●第十三條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中欠員を生ずるときは次點者を以て補闕す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め閑遊會を開くことあるべし

●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を嘱託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず

●第二十條　規則の改正其他所要の件議定のこと

●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を購求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金品若くは其所持物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證は貸として別に返信料を添へらるべし（郵券は一割增）

●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月集金人を差出すべし地方會員は總て前金として口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は[illegible]く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本鄕區駒込林町二番地

私立大日本婦人衛生會

講演

女子の體操

醫學博士　田澤鐐二

今日此方で何か講演をせよと云ふ御話でありましたが、私は斯う云ふ御婦人方ばかりの會で御話するのは初めてゞありますから、どう云ふ風な話を皆さんが面白くお聽下さるか一向様子が分りませぬので、お聞苦しい點がござりますか知りませぬが、自分の感じて居ります事を一つ二つお話致します。

在歐所感　私は唯今御紹介下さいましたやうに、戰爭の始に獨逸に居りまして、戰爭になりましてからも昨年の春まで瑞西に居りましたので、戰爭の始まる前後の様子などを見ていろ〳〵感じた事がござりました。私は誠に筆が拙で巧く行きませぬけれども、それを一冊の本に書きまして、自分の知人、友達などに贈りました、（遊歐紀念「囚れより自由へ」を供覧す）。

實際的、實質的　向ふの社會と、此方の社會とはいろいろ違つた點がありますが一口に申すと、向ふでは多くの事が實際的、實質的であります。惡るく云ふと美術的でない、日本の方が精神的で高尚であるといふことになるかも知れません。併し他面から見ると日本の方がいろ〳〵形容に失して居るとか或は無駄に力を費やすことが多いと云ふことになります。善く解釋すれば上品で作法に富んで居ります。譬へば一寸人様に物を贈るにも、日本であると必ず紙に包んで水引を結んで熨斗を附けて贈ると云ふ風であります。西洋人は買つて來たまゝ、精々紙にで

も包んで、そのまゝ出すと云ふ風である。花一つでも、日本の人は名稱も知らない花を綺麗であると云つて花瓶に活けたりして居るが、向ふの人は山へでも一緒に行つたりした場合には、花なぞを採つても婦人などもいろ〳〵名前などを能く知て居る。それは何處で覺えたかときくと小學校で習たと言ふ。さう云ふ風に既に小學校教育の時分から實物を教へると云ふことに力が注いである。ところが日本では小學校でも少し習ひ、中學校でも少し習ひ、高等學校でも植物學があつてもとう〳〵草の名前など一向知らないと云ふやうな狀態であります。極く卑近な例に就て、お話しするとさうでありますが、其他重大の問題に致しますると學問上の問題にしましても、經濟上の問題にしても、亦日常の種々な生活問題にしましても、向ふは皆實質を尊重するやうであります。例へば學問上の問題であると、醫者が斯うしなければならぬと云ふと、素人の人は一生懸命にそれを行ふと云ふことに努める。であるから机上論だとか空論だとか云ふことにはならない。何でも學問上で良いと分つた事は行ふべきことであると考へて居るやうな風に見える。話は話、行は行と云ふやうには考へて居らないやうであります。それと較べると日本では大變異つて居る。學問の事にしても、理窟ではさうだが、實際はさうは行かないと云ふ風になりますし、又實際の學問上の社會に這入つて見ましても、本當の學術上の爭といふよりは、へんな感情上の問題などを書き立てる雜誌が榮えて居たり其他社會各種の方面に於て、井戸端會議式乃至三面記事的の實の無い事柄が流行して居ます。之れとは大に社會の狀態の違つて居る獨逸で私は戰爭の始まつた時の樣子を見て、今日世界中何れの國でもこれに適ふ國はなからうと感じましたので、此本の中にさうかいてあります。どうか私の書いた事が全然間違ひになるやうに希望して居るのであります。大多數の男子が皆戰爭に出て兵役の義務に服して居りますし、又食料品が足らないと云ふことで非常に注意

がありまして、いろ〳〵物價の調節をしたり、買占を禁じたりしましたが、存外奸商なども起らなかつたと云ふことは事實であります。凡て向ふではさう云ふやうに、何事も實際的であり、實質的であります。日本の方が精神的だといへば大變高尙にきこえますけれども、實際に於て吾々も將來實力を以て世界各國と爭つて行かうと云ふ上に於ては、どうしても西洋人に負けないやうに、もつと實質的に努力することが必要であると思ひます。此本の中にはあちこちに、御婦人方に當つた所もありますが、一例を申すと、西洋の女の人は、同じ美を誇るにしても皮膚をあらはして健康美を誇らうとするやうに見ゆるのに、日本の人は白粉を餘計塗けて著物を餘計著て體を隱して誇ると云ふ風であることなども書かれて居ます。今度の戰爭のやうに多數の兵隊が必要になると男が足りないと女でも戰をせねばならないと云ふやうなことにもなりませうし、又平時でも生存競爭が益〻激烈になりますから、在來の位の貧弱な婦人の體質で進んで行つたならば此に耐ゆることなどは出來なからうかと寒心いたされます

體育　こんな所感を持ちましても、吾々微力な者が種々な社會問題に觸れても、詮無きことでありますが、私は醫者でありますから、せめて醫者の方面で多少實行の出來る事を提へて考へますと、第一に、日本人の體育をもつと進めなければならないといふことであります。日本の軍隊の强大なことは、歐米各國でも驚異してゐる所でありますが、これは體格檢査に合格して、規則正しき軍隊教育を受けた今日の兵隊に就いていふことでありまして、萬一今日の歐洲戰爭のやうに大兵を出さねばならないことになると、果して其聲價を保ち得るや否やは、今日、體力の一般に劣弱である實狀から見て懸念さるゝことであります。此等の考へから體育の事に考へ及んで來ますと、男子には勿論體育が必要でありますが、殊に劣つて居るのは婦人であると思はれますので、一般の男子に體操を勸むると同時に、殊に婦人の體

質を丈夫にして、强健なる國民を作り出さねばならぬと考へるのであります。是から體操の話に移ります。

實行難　體操と云ふと、日本の婦人などには實行致すと云ふことが何うも困難であらうと思はれまするけれども、私は瑞西で、體操の講演があつて醫者が來て話すと云ふことで聽きに行きました。さうすると廣い市の議事堂が聽衆で一杯で、其中には女が半分位も來てゐました。新聞に廣告さへして置けば、相當の入場料を拂つてかく多數の婦人が體操の講演を聽きに來ると云ふことは、吾々日本人には異様に感ぜられました。又其醫者が體操の講習を授けることになりました處、それも男と女と隔日でありましたので、女の講習生も若干あつたものと見えます。私も其男の仲間へはいつて、講習を受けました處脂肪太りの旦那風の男もあれば、其息子も來て居る肥つた人なぞが行る體操は大變下手で吹出したくなる位ですが、一生懸命で行つて居る。下手ながら一生懸命に行ると云ふ所に一の興味があると思つて見て居りました。一般にさういふ事が流行するやうな氣風さへ出來れば、實行するのも餘程容易の事にならうと考へます。

人間の身體のはたらきに就て申しますと、大體人間の身體は胃腸からとつた榮養分が肺臟からとつた空氣中の酸素によつて酸化燃燒して、活動して行くもので恰度石炭が燃えて蒸汽機關の運轉するやうな仕掛けになつて居るもので、其爲めには空氣を吸入呼出する呼吸器や、榮養分酸素及び炭酸瓦斯などをアチコチへ運搬する心臟が一刻も休まずに非常な勞働をして居るのであります。吾々の一擧手一投足も凡てこれ等の器官の活動の賜物として出來るのであります。これが出來なくなると忽ち死なねばならぬことになります。であるから呼吸器、消化器、循環器は主なる身體の機關でありまして、其他に榮養に必要なるものはいろ〳〵ありますが、筋肉や皮膚の鍛錬が健康を進めるに大關係があります。

呼吸器　呼吸器は前に申した様に體の榮養に非常に必要な器官であるのみならず、非常に怖い病氣の附き易い場所で、即ち肺結核と云ふ病氣が附きまして其病氣は四百四病中最も恐ろしい病氣で、西洋の統計でも非常な數になつて居ますが、日本でも非常に此肺結核が多くなり、一般に結核と云ふ病氣が非常な勢で蔓延して行きまして、皆さんの御知人の中にも大勢此病氣で死んだ人がありませうが、又外を步きましても、知れて居ないで肺結核の病菌を有つて居る人は澤山あります。さうして其病氣に罹ると何の位悲慘なものであるかは、皆さん不如歸の小說を御覧になりました方は能く御存じでありませうが、肺病に、單に一身を浪子さんのやうな境遇に陷れる許りでなく、實に一家を絕滅し、或は子孫迄も肺病やみの子だと言つて結婚にまで嫌はれると云ふことにもなります。

肺結核豫防と呼吸體操　肺臟の病氣、特に肺結核の豫防に向つては呼吸體操を青年時代から練習することは最も有效な方法であります。結核の黴菌が體の中に這入て來た時に、自然の生理的の力で之れを殺すには何が一番良いかと云ふと、肺臟の動脈中に純潔な血液の循環が旺盛であることにあります。吾々醫者は每日澤山の病人に接して居りますから、其中には肺病の患者も來るのである。皆さんにしても、此全東京市へ每日鐵砲の彈丸が百とか二百とか飛んで來るとしたらば、危險で住んで居られないと御考へでありませうが、日々皆さんが肺病の黴菌に接せらるゝ機會は到底この鐵砲丸の例どころの數では無く、殊に吾々なんかは何の位あるか知れませぬが、それでも打勝て行つて居るのには、純潔な血液の循環が旺盛で、空氣の風通も充分な健全な肺臟を持て居ると云ふことしか賴りになり、力になるものはないのであります。

で肺臟の內でも結核の病氣に侵され易い事は肺尖が一番でありますが、此處は尖つた端の所で、空氣の出入りも血液循環も惡い樣な處ですから、自然結核

が餘計附き易いのであります。既に肺結核に罹つた人の治療に向つても、塵埃も黴菌も混じて居ない、さうして寒さや暑さの氣溫の變化も少くして、風も少く日當りの良い氣候の極く穩な所に行つて居るのが一番肺病には藥である。加之始終戸外體操でも行つて居りまするさ、外の比較的冷めたい空氣を吸込むことには慣れて來まして、それは害はありませんばかりでなく、冷めたい方が溫い空氣のたてこもつて居る所より發育が惡るいので、詰り肺が結核菌に侵されぬと云ふことになる。運動によつて全身の榮養が良くなつて來るさ、これも亦病氣に對して抵抗力の強くなる事項の一つになります。それで結局體操、特に呼吸體操が非常に結核の豫防になると云ふ事は爭はれないのであります。

呼吸の仕方にも、胸で息をするのさ、腹で息をするのとありまして、此二つが能く行かないといけませぬ。大體婦人は胸式呼吸がおもで、男子は腹で息をする方が多い。腹で息をするといふのは、主として横隔膜で呼吸をするのでありますが、日本でも此腹式呼吸に就ての觀念は昔から澤山ある。禪宗の坊さんが座禪をして下腹に力を入れて居るのは暗々裡に一種の腹式呼吸を行つて居るのでせう。其他藝術事は腹の坐わり、腰の力が肝要だと申しますが、素人の踊にしても或は謠にしても腹に力が無いといけぬと云ふことを申します。健康法として腹式呼吸を練習すると云ふことは、殊に理想的な方法でありますが、併し單に此腹式呼吸のみが吾々に有益といふではなくして、腹式呼吸と共に矢張り胸式呼吸も能く出來ねばいかぬと思ふて居ります。胸式呼吸の練習をして、それに對する筋肉が發達して行くさ、自分は知らんで居つても自然筋肉が強く働いて、肺尖などにも空氣が多く這入つて血液の循環も良くなるから、從てそこに黴菌のつく事も少くなると云ふ譯であります。

倘呼吸運動に大影響を及ぼすものは正しき姿勢の習慣でありまして、之れを等閑にしてゐるさ、此圖の

様に圓い背中の早老の姿勢になつて（圖解）其他の惡い姿勢が永久に殘つたりして、自然呼吸運動の障碍を來すことは明かであります。故に呼吸體操の練習に當ては姿勢の矯正は一つの重要な事項であります。日本の藝事でも謠などのやうなしつかりした事をやるときには自然姿勢が八釜敷なります。

聲樂　呼吸の上手く行くと云ふことは非常に健康上必要であるのみならず。聲を出す仕事に就ては何事にでも必要であつて、吾々が演說を爲るにしても、唱歌を行るにしても、謠にしても、息を出して其時に出る聲を樂しむものは總て此呼吸の充分に出來るといふことが大なる關係をもつものであつて、呼吸の練習をすると云ふことが必要になります。特に聲の長くつゞくことには呼吸の練習が必要であります。通常の呼吸では吸氣は呼氣の凡そ四分の三位の時間であるのに、演說又は聲樂では呼氣が吸氣より著しく長くなります。卽ち急に大量の空氣を吸ひ込みて平等に出來る丈け長く呼氣をつゞけねばなりません。呼氣の初めで一度に空氣がどつと出てしまうやうではいかぬ。それには呼吸體操をやつて呼吸筋を強くすることが必要でありますと同樣に又聲樂は一種の呼吸體操と見ることが出來て、呼吸器を強くするのに有效なものであります。

呼吸體操は支那でも西洋紀元前二千六百年頃から行はれたといひますが、其後東洋では佛敎徒の方で行つて居る。古代の希臘人や羅馬人にも呼吸法竝に音聲の練習として行れましたが、近世醫學の上からも同く健康に對する效力が唱道されるのであります。

血行器　深い吸氣をした際には、胸の中の壓力が大に減るからして、心臓が靜脈から血液を吸上ぐることが易くなり、反對に呼氣の際には血液の還流が妨げられます。又手足の姿勢も血行に大なる關係を持つもので、此圖のやうに、腕と脚をひらいて立つた際には（圖解）靜脈の還流が易くなり、あちらの圖のやうに腕や脚を曲げて、はみ込んだ時には靜脈の還流が妨げられます。前者は精神の緊張した時の姿

勢であつて、呼吸體操に多く應用せられ得る所のもの、後者は精神の萎靡した悲哀、憂鬱等の姿勢であります。心臟が動脈へ血液を送り出す力は大なるものでありますが、靜脈内の逆流は力の弱いものでありますから、如上の理由を應用して、深呼吸と同時に適當な上下肢の運動を行ふと大に血液の循環を助けて健康を増し、就中心臟や腎臟等に對しては良い影響を及ぼすのであります。

○○○○○皮膚の強壯法　運動と言へば、殊に必要なるものは筋肉の關係でありますが、今これは、とんで少し皮膚の御話をしますと、之れの鍛錬は又身體の健康に大なる影響を有するものであります。昔は醫者の方では感冒——風引を以ていろ〳〵な病氣の原因と申しましたが、段々病氣の眞の原因が分つて來て感冒を眞因といふ病氣は次第にへつて來ましたが、併し風引が誘因となつて起つて來る病氣は甚だ多くありますから、感冒の恐るべきことは昔も今も變ることはない。唯今日では少し說明が變つて來たばかりである。であるから總ての種々なる病氣の爲めに風を引かぬと云ふことは身體の健康を保つ上に必要で、それには皮膚の鍛錬、皮膚の強壯法と云ふことが昔から行はれて居りますが、併しながら是も下手に行ると却つて風を引いたり、氣管枝炎や關節僂麻質斯と云ふやうな病氣を起すやうなことになりますから、肌の薄弱な人であれば、醫者の指揮を受けて注意して行らなければなりません。併し適當にやれば有效なことは論を俟たないことであります。之の方法は種々ありますが、水治療法(冷水摩擦等)などは有效なもので、先程も申上げたやうに、肺に充血を起して結核の豫防にすることなどに向つては、水治療法は特に有效なものといはれてゐます。冷水摩擦などの效果は皆さんも始終お聽になつて居ることでせうと思ひますが、西洋人は餘り御湯に入らぬ代はりに、冷水で體をふくことは毎日やりますが、日本でも毎朝顏を洗ふ時冷水摩擦をする習慣は是非つけると良いと思ひます。それから又西洋なぞで唱道さ

れてゐるものは裸體體操であります。裸體にして日光に曝して置くと云ふことは――茲にも丁度そんな寫眞がございますが、瑞西などでは、結核患者を收容して居る療養所などで年中に、子供などの結核患者を裸體にして運動をさして置きます。それは段から慣らして行くから冬になつて何ともない。さうして冷たい空氣に慣れさへすれば、自然風も引かないやうになるのであります。裸體體操は古代のギリシヤ人なども、既に稱揚して居るのでありますが、今日歐羅巴でも醫者が體操を行らせるには大概裸體であります。私が試みに瑞西で體操の講習をうけた時にも、此寫眞のやうな裸體體操でありました。其外皮膚強壯法で必要な事は衣服家屋の構造であります。

私は一體日本婦人の服裝に就ては改良せんければならぬ點が多いと考へて居る一人でありまして、第一に運動に不便なことをわるいと思ひますが、併し日本服の良い點もありまして、吾々男子のやうに襯衣を著ないで、襦袢であるから、自然皮膚の鍛錬になり、男よりは婦人方の方が風を引かれないでせうと思ひます。吾々はさう云ふ著物を一日でも著たら風を引いて仕舞ふでしやう。それから家屋の構造は御承知の通り餘り良くない。家は障子一枚で境をして居ますから、殊に我々の借屋のやうな小さい家で障子でも破れてゐますと、まるで家の內に居ると云ふ感がしない位でありますが、之れが却て皮膚の鍛錬になるとも考へられるのであります。前に述べましたやうに私が瑞西で體操を習つた時、其醫者は冷水摩擦や、「マッサージ」の樣な皮膚の摩擦を兼ねた體操をやつてゐて、之れによりて皮膚の榮養が良くなり、血色も良くなつて自然皮膚が美しくなり、又皮膚が強壯になるといふてゐました。如何にもお婆さんのやうな顏をして居つた婦人が體操を行つた爲めに大變肉附も良く皮膚も美しく、姿勢も良く、精神も快濶になつて、別人の如く美人になつたといふ寫眞も出てゐます。だから日本の婦人方も首から上

に白粉を澤山塗つて、美しい著物を著て裝飾で美を誇ると云ふ代りに、劍出しに實際の皮膚の美を誇るといふ樣な氣風になつて來るとよからうと考へる次第であります。

段々時間も遲くなりますから、今日は體操の說明はそんなことにして措きましてさて、これ等の事を應用し、いろ／＼な人の方法を參酌し、殊に日本人の習慣に適するやうな體操の式を編出して見たいと考へて居るのであります。併し婦人方に裸體で體操を爲さいと云ふことは出來ませぬから、私はこゝに斯う云ふ著物を作つて見ました、(實物供覽) これは體操を爲る仕組に丈けは充分になつて居る積りであります。唯今私が假りに著て見ませう。著なければ分りませぬから、(著物を著て) 斯う云ふ風になつて下の方は紐革で腰の處を締めるやうな工合に出來て、上の方は腹の動き方や胸の動き方が能く分るやうに出來て居ます。又脊柱も易く見られるやうになつて居ます。下は開いてゐますから運動が充分に出來、又猿股を穿いて居れば脚も充分に體操が出來ることと思ひます。私が假りに拵へたのでありますから御經驗の有る婦人方に直して戴かなければなりません。身體の健康を增進する上には、呼吸體操は殊に有益であることは申上げるまでもありませぬけれども、之を毎日行るには非常に忍耐が要るのであります。併しこれを意志の修養としてやらうと思へば日常かゝさずに行ることも出來やうかと考へます。體操を行ると人間が自然快濶にもなるので、旁々精神修養が出來ることゝ思ひます。獨逸が戰爭に強いと云ふことに就ては、獨逸の國民が強健な身體をもつて居るといふことが非常な賴みになる事でございませうが、此身體の強いと云ふことにはいろ／＼な原因があつたので、獨逸では夙に體操が大に勃興して盛に行はれたのであります。此頃入澤教授の話にもヤーンと云ふ人が大に體操を唱道して其組の人はドと云ふ字を四つ書いた徽章をつけてゐた。これ獨逸語で多分「フリッシュ」、「フライ」、「フレーリヒ」、「フロ

ンム」と云ふ言葉の頭文字をとつたものだと記憶してゐるとのことであつた。即ち元氣、自由、愉快、敬虔等の意義であります。吾々もさう云ふ風に行れば出來ないことではなからふと考へます。吾々の健康を增進するにしても、自分がなまけてゐて、神樣から出來上つた健康といふものを頂きたいと云ふたところで、健康と云ふ丸藥が來る譯でもなく、矢張り吾々が自分の日常の努力に依て健康を築き上て行くより外はないのであります。併しそれでも體操といふものは持續されにくいものでありますから、何とかして日常生活と組合して一定の規則を立て、例へば朝起きる時、牀の中で深呼吸を正しく行ひ、起きると皮膚の摩擦體操をやり、それから冷水摩擦を行るといふ樣な式にし、一方には或は音樂や踊りなぞと體操を組合して行ると云ふやうに興味を添へて行つたならば、多少行はれ易くならうかと思ひます斯くの如くして日本の男子は勿論、女子の健康をも增進することが少しでも出來たならば非常に幸福であります。殊に私は醫者でありますから、結核豫防などの外、種々の病人、例へば神經衰弱の人、心臟病の人或は慢性胃腸病のある人、糖尿病乃至脂肪過多症の人などの治療等にも應用して見たいと考へて居ります。

叢談

日本室内の防寒法

醫學博士　佐々木秀一

寒さと病氣

寒さと云ふものは色々の形で種々の病氣の原因になり又た病氣の治療を妨げて居ます。殊に呼吸器の疾患に於て其關係が顯著で、鼻腔、咽頭、喉頭の炎症等は勿論の事、氣管枝や肺の疾患もどれだけ寒さの

弄ぶ所となつて居るか知れないのです。斯う云ふ關係から觀ると寒さと云ふものは疾病の豫防の上にも亦た治療の上にも甚だ重大な意味を持つてゐるものであります。

適度の温室

一體、室内の温度卽ち室温はどの位なれば寒くなく健康に適するかと云ふと獨逸の衞生學の本などには通例、攝氏の十五度乃至十八度、卽ち華氏なれば六十度乃至六十五度としてあります。此位の温度なれば通例の冬服を著て居て決して寒くは感じない。懷手もせず火鉢に手をかざさずして手の凍える事なく心氣よく執務する事が出來ます。同樣に寒さが呼吸器の粘膜にも感じない。寒さの爲めに咳嗽が出ると云ふ事も無い。併しながら此位の適當の室温は東京邊の冬季の氣候では自然の狀態では到底得られない。何とか火氣を用ゐて室を暖めなければならない。尤も日光の良く射入する南向の室であると日中は冬でも中々暖かい攝氏の十八度よりも遙かに上に昇る。併し朝夕は寒い。雨の日だと日光の惠を受けられない。故に槪して東京邊の冬の室温は自然の儘では適當の温度には達しない。私が自分の家で、日光の影響を受けない室を選んで、每日室温を計つて見た表によると、年によつて異いますが大體の處此の十五度乃至十八度の適温を示す月は一年の內、三月と四月と十月及十一月で夫も時々狂ひを生じて高過ぎたり低く過ぎたりする事の方が多いのです。

冬の室温

冬の標準になる一月と二月とに於ては、室温の最低が攝氏二度や三度と云ふ事は珍らしく無く、四度とか五度とか云ふのが一番多く、雨の降つて暖かい夜の最低が七度乃至九度であります。次に日中の室温の最高は午後の日中ですが十度前後（七度乃至十四五度）であります。故に平均した所で一二月の寒さでは五度乃至十度と視て宜しいでせう。故に此の寒い室も三四月の氣候のやうに十五度乃至十八度位に仕やうとするには何等か暖室裝置を設け無ければ行

はれ無いのです。

東京と樺太

私は樺太在住の或る結核患者を東京で治療して居た時、十二月に入つて患者は樺太に歸ると云ふので寒いから歸るのは良くあるまいと申した處が、患者の云ふのに東京は寒くて困るが樺太は暖室裝置が整頓して居て室内に居れば寒さを知らないので是非歸り度いとの事であつた。實際、東京邊には完全な暖室裝置は特別な家屋以外には甚だ稀であつて又た絕對に必要でも無いのであります。日本家屋に於ける普通の防寒具は火鉢か炬燵であつて甚だ非文明式ではあるが是で嚴寒も何とか凌げるし、暖爐其他の暖室裝置はどうも都合良くは使用されず、如何にも中途半端な狀態にあるので日本室の嚴冬時の暖室法は發達を仕惡いのであります。

暖室法の行はれぬ日本室

純粹な日本室、即ち紙障子に疊の家は自然換氣が良い爲め暖室法は行はれ無い。強いて行つた所で甚だ不經濟になつて到底永續されない。若しも紙障子の代りに硝子障子を用ふれば換氣量は減少するけれども壁や疊や天井の構造が改められなければやはり本統の暖室法は出來ない。要するに日本室は完全な暖室法の行はれ無い構造であつて火鉢や手あぶり的防寒具で滿足し座蒲團の上に座つて仕事するを適當とするものであると云つて良しい。尤も兒童や青年の元氣の良い者には五度乃至十度の溫度は何の苦痛も無い、立働いて居れば勿論の事、縱令座して居ても無事に堪へられるので、現在、多數の商家や普通の家庭では暖室など云ふ事は恐らく夢想だも仕ない。「ストーブ」などは橫著なもの位に見て居る。此の元氣と對寒的能力とは誠に結構な事で是非とも永く保存したいものである。併しながら他面には困る事もある。即ち火鉢に當り股火に親むやうでは手の仕事が進行しない、換言すれば冬季の仕事は甚だ進捗しない事になる、少なくとも手足の凍えぬ程度に室を暖め度い。

寒さの爲めに殺される者

次は體質の弱き者及乳兒などが此寒さに堪へずして屢〻病氣に罹り又呼吸器の病氣に罹つた者が治癒し難いので死ぬ者が多くなる、換言すると間接に寒さの爲めに殺される者が多い事になる。故に必要な程度だけの健全な暖室法も行へるやうに仕て置かなければ困る。然るに世間には往々驚くやうな非衛生的危險を平然として行つて居る者が少く無い。例へば小供が肺炎にでも罹ると、醫者も家人も空氣を乾燥しては惡いと云ふ、而して火鉢に火を盛に燃やし金盥から蒸氣を立たせて置くのであるが夫で差支無いと思つて居る者が多い。甚しいのは呼吸困難の患者を其爲めに窒息させたやうな例もあります。或は日本室乃至和洋折衷室に煙突の無い瓦斯「ストーブ」や木炭「ストーブ」を用ふる者は多い。是も一時的なれば仕方が無いとするが、長時間盛に之をたいて而して炭酸瓦斯中毒に罹つて頭痛に苦む者に屢〻遭遇します。

健全な經濟的の暖室法

健全な而して經濟的な暖室法を行はんとするには如何にすれば宜しいかと云ふと、其要約として先づ第一に室内が密閉し得るを必要とする。紙障子や唐紙では到底駄目で、木製の戸や硝子障子であつても隙間が出來るやうでは駄目である。厚い壁で窓も氣密に閉される事を必要とする。第二には人工的の換氣孔があつて必要なだけの換氣は任意に出來なければならぬ。第三に適當な暖室裝置を必要とする。此暖室裝置には種々あつて蒸氣、溫水、熱氣等を熱原に用ゐ又は石炭、瓦斯、「コークス」、薪、木炭、電氣等を用ふる暖爐もあり、今茲に一々說明する餘白は無いのですが、此暖室裝置は總て有害な燃燒瓦斯を漏して室内の空氣を汚すやうでは用うる譯に行かない、又其發生熱が放射熱を主とするやうだと良しくない。次には其放熱が成るべく均一で熱過ぎたり寒くなつたり仕ないやうで無ければならない。取扱ひが成るべく簡便で火事の危險が無く且つ經濟に出來

ないとどうも一般に用ひられない。又石炭「ストーブ」の如く灰の取扱で室内を汚すやうなのも理想的では無い。

弱蟲及び經濟家住むべからずの日本家屋

以上の要約から判断しても一般の日本家屋には健全な且つ理想的な暖室法は出來ないと云ふ結論になる日本家屋に住まんとする程の者は豫め暖室など云ふ弱い考へを持つては相成らぬと云ふ事になる。火鉢の手あぶりで我慢するを最良とする。併し經費を惜まなければ如何なる方法でも佳良な暖室は出來る例へば蒸氣或は湯の管を牀下に通して疊の下から暖かにするも良いし又は外氣を暖めて室内に吹込むやうにしても良しい。但し一般の家に行ふ譯には行かない。

せめてもの暖室法

一般の日本室に用ゐられる最便な暖室法に就て種々調べて見たがどうも理想的なものを得ない。若しも止む無き暖室の必要があれば先づ硝子障子を多くして適當なる石炭瓦斯の「ストーブ」をたくのが比較的便宜である。但し煙突を附け無ければならぬ。如何に換氣の良き日本室内だと云へ長時間に亙り無煙突の瓦斯「ストーブ」をたく時は甚だ不健康であつて殊に病室などには甚だ有害である。木炭や「コークス」の暖爐も同樣で煙突を必ず附けなければ不健康である。普通の火鉢であつても手あぶりの目的以上に多量の炭火を殊に黒い炭を室内で燃やす時は同樣に有害であり稀には生命に危險を及ぼす事もある。

暖爐の注意

次に石炭暖爐は煙突無しには當然使用出來ない。例へ煙突があつても其構造が惡いと強風の日には石炭の煙が室内に吹出づる事がある。又暖爐の構造が粗惡なれば多數の間隙があつて無色無臭の燃焼瓦斯が室内に漏出する。目下東京邊にて販賣せる石炭暖爐は悉く粗惡の構造であり、商人も製造者も夫で差支無きものと考へ、使用者も其不良な個所に氣附か無

い。但し換氣の良き日本室に用ふる場合なれば夫でも大なる障碍は無いかも知れぬ。併し比較的氣密な室であると斯かる不良の暖爐を用ふれば必ず頭痛を起す。若しも室内に暖爐をたいて頭痛を覺える者があれば夫は其裝置が惡いので甚だ不衞生だと知らなければならぬ。又た暖爐をたいて顔がのぼせたり咽がからびるやうなのは夫は暖爐の使用法を知らぬので使用を誤つて居る事に氣附かなければならぬ。

暖室法は室内の空氣を均一に暖めるのが目的であつて決して火鉢や炬燵の如く直接、火に當たる爲ので無い、故に當つては暖くないやうに周圍を圍うのを良しとする。又た空氣が一程度以上乾燥せぬやうに水分の蒸發を計らなければならない。元來、暖室法は室内を適度に暖めるのが目的で暖め過ぎるこきは却つて有害である。普通の室なれば前述の如く攝氏十五度乃至十八度を適度とし夫れ以上にならぬ方が却つて健康上良しい。のみならず一般の日本室にては冬季十度以上、十五度迄の内なれば澤山で上等である。故に適當の方法で暖室すれば此位の室溫にする事は決して困難では無い。併しながら若しも不良の暖室法を行ふと、一面が暖か過ぎて他の一面は反對に寒く感じ、或は暖室の結果、建具の隙間より室内に寒風が侵入して其爲に寒く感ずる等の事あり、室内の寒暖は必ずしも寒暖計の示度とのみ關せず隙風の有無及放射熱の有無と大に關係する。

寒暖計の置き場所

又寒暖計も其置き場所によりて示度を異にし牀に近き程、溫度低く、天井に近き程示度が高い、故に若し室内で人が寐て居る時なれば殆ど牀に近く寒暖計を置いて檢し、人が座つて居るなれば牀上三尺程の所に置いて檢さなければ適當では無い。

以上述べた所は甚だ不秩序ではあつたが要するに、東京邊の冬季の寒さはどれ位であるか、健康に適する室溫は何の位であるか、寒暖計の置き場所は如何にするか寒さの爲に如何なる危害と不利益とを受けるか、日本室には完全な暖室法は行へぬ事、併し暖

室するとすれば如何なる方法が良いか、煙突の必要な事、不良暖爐の事、暖爐使用の注意等を概述したのであります。

十二指腸蟲の話

醫學士　篠原昌治

人體に寄生する蟲類は多くの種類がありますけれど、最も多數なるものは蛔蟲と十二指腸蟲とであります。其中に就て蛔蟲のことは一般によく知られて居りますから今爰には十二指腸蟲に就ての御話を申上げようと思ひます。

何處に居るか

十二指腸蟲病は以前には東洋及び埃及等の熱帶國にのみ存するものと信ぜられて居りましたけれど、近時に至り歐洲各國に於ても此蟲の存在を發見せらるる様になりました。吾邦に於きましては到る處に蔓延して居りますけれども殊に埼玉縣、茨城縣地方に多く、一般に市街地のものには稀でありまして、農村に居住するものに多數に之を見るものであります。

如何にして傳染するか

本病は屢〻其流行地より來る旅人により傳播するものでありまして、其傳染の徑路としては、本病患者の排泄せる糞便の中には無數の十二指腸蟲卵を有するものでありますから、此蟲卵を含める糞便に接觸せる手指を清拭せずして食物を攝取したり、又はその糞便の附著せる野菜等を生食することによつて本病を發生し、其他斯の如き糞便によつて汚染せられたる水により本病の蔓延を來すものであります。夫故本病の豫防と致しましては、斯る患者を其土地に入れぬことが最も大切であります。近來亞米利加へ移住する際に同國が嚴重に十二指腸蟲病を有するものゝ入國を拒絶すると云ふことは、全く此病氣が移住民により傳播するを恐るゝ爲であります。

蟲の形大さ及び色

十二指腸蟲は圓柱狀をなして居りまして、その雄蟲は多くは白色を呈し、雌蟲に比すれば稍〻細くして且短く其長さ二分三厘乃至三分六厘、其幅は平均僅に一厘五毛位のものであります。雌蟲は淡黄色、褐赤色或は赤色をなして、雄蟲よりも稍太く長く、其長さ二分三厘乃至五分五厘、幅は平均二厘一毛位のものであります。

腸内寄生の場所

十二指腸蟲と申しますから此蟲が人體内に入りますれば必ず十二指腸にのみ寄生するものゝ様に思はれますけれど、決してそうではなく、十二指腸よりも寧ろ空腸、廻腸あたりに澤山に存在するものでありまして、此處では本蟲は六箇の齒鉤を以て腸粘膜に固著して人體の血液を吸收するものであります。此際雄蟲は餘り多くの血液を吸ひませぬから白き色をして居りますけれど、雌蟲は自己の榮養に必要なるよりも多量の血液を吸收しまして、其爲に褐赤色を呈するものであります。

如何なる症狀が起るか

十二指腸蟲が人體に寄生しましたときには如何なる症狀を來すかと申しますに、その最も初めに現はれてまゐりますものは貧血でありまして、それは一方に於きましては寄生蟲が人體の血液を吸收することにより他方に於ては寄生蟲の體内より排泄する物質の中毒によつて發するものであります。而して貧血症狀は多くは本病傳染後五週間乃至六週間にて發現するものでありまして、其際患者の皮膚は蒼白色となり、普通紅色を呈して居る口脣や眼瞼等も殆んど血色とてはなく、一見其顏色が汚い蒼黄い土の様な色をして居ることによつて其人が健康體でないと云ふことが直ちに識別せらるゝものであります。

貧血

貧血の度が進みますれば、患者は非常に疲勞し易く極めて輕微の運動により忽ち烈しき心悸亢進、呼吸困難を來し、殆んど運動することが出來なくなりま

す。その貧血が極度に達しますれば、患者は常に就褥せねばならぬ様になります。それは少しでも身體を動かしますれば容易に腦貧血を起し、眩暈、耳鳴失神等を來すからであります。

浮腫

十二指腸蟲病の際には屡々皮膚に浮腫を來すことがあります。元來、皮膚の浮腫は心臟病、腎臟病、脚氣等の時に多く發現するものでありますけれど、高度の貧血を有する患者でありまして皮膚に浮腫があるときは、それが十二指腸蟲の爲に來ることがありますから、其際は常に大便の顯微鏡的檢査を行ふ必要があります。

出血

此病氣の際には身體の外皮又は粘膜に出血を來すことがあります。其際汚い蒼黄い色をした皮膚や血の氣を失つた粘膜の處々に帽針頭大乃至米粒大又はそれよりも大なる赤黑き出血點を見るものでありまして、患者は何か非常に危險な病氣に罹つたものかと思ふて心配することがありますけれど、幸に十二指腸蟲病であると云ふことが發見せられて、其驅除法が行はれますれば、此等の症狀も程なく消失するものであります。其他稀には網膜の出血を來し視力の障碍を來すこともあります。

糞便檢査の必要

十二指腸蟲病の主要症狀は、既に申上げました通り貧血でありまして、其貧血は單に患者を見た所では進行性惡性貧血や癌腫惡液質による貧血と異なることはありません。夫故に此病氣の診斷は、主として患者の大便の檢査によるものでありまして患者の大便を顯微鏡下に檢査しますれば、必ず十二指腸蟲の卵を發見するものであります。而して其多數に存在するときは容易に之を發見することが出來るものでありますけれど、極めて少數なるときは時として之を看過せらるゝことがあります。然し近來大便中の寄生蟲卵を檢査する際に、集卵法と申ましてその中の蟲卵だけを集めて檢査する方法が行はるゝ樣にな

りましてからは、多く之を見逃がさるゝことはない樣になりました。併し此集卵法を行ふには多少の設備と手數とを要しますから、何れの醫師でも糞便の寄生蟲卵の檢査をする際に必ず此方法を行ふときまつたものではありません。夫故に甲の醫師が糞便を普通の方法によつて檢査して十二指腸の蟲卵はないと云はれた際に、乙の醫師が更に集卵法によつて檢査して之を發見すると云ふ樣なこともないではありません。

十二指腸蟲病は糞便を檢査しなければ常に其診斷は明かでないかと申ますに、決してそうではありません。其貧血の狀態及び其他の臨牀的症狀で本病の固有なところも少くありませんからたとへ糞便の檢査をしないでも明かに本病と診定せらるゝ場合もあります。併しそれは極めて熟練なる醫師の診斷のみを信用すべきものでありまして、多くの場合に於ては他の貧血と間違ふことがないとも申されません。且糞便の檢査は決して面倒なことでもありませんから、矢張り糞便の檢査によつて正確なる診斷を得ることが安全であります。

十二指腸蟲は充分肉眼で識別することが出來ますけれど、糞便に交つて居る時は分り兼ねます。夫故之を見出すには、大便を篩に入れてよく水で洗へば、大便の他の部分は流失し、蟲體のみが殘ります。

現今では十二指腸蟲病に就ては大に注意せらるゝ樣になりましたから間違もない樣でありますけれど、以前には十二指腸蟲病の患者でだんだん血色がわるくなり、食慾進まず、身體衰弱する爲、醫師の診察を受け、種々治療するも少しの效果もなく、漸次重症に陷りまして、既に生命も危いと云ふ樣になりました時に他の醫師を訪ひ、其際十二指腸蟲病であることが發見せられ、その驅除法を行つて貰つて危い生命を取り止めたと云ふ樣なことは屢々耳にすることでありました。

現今でも、重症の病氣に陷つたものが醫師の診察を受けても、病症が不明であつて困つて居る時に、偶

偶醫師が糞便の檢査をして十二指腸蟲の卵を發見しそれで其病氣は十二指腸蟲の爲に起つたものである、これさへ驅除すれば健全になほると考へて驅蟲療法を行ひ、幸に十二指腸蟲は驅除することが出來ても、豫期した様に患者は輕快せぬのみならず、却て益〻重態に陷りますから、尚よく檢査すれば、其以外に他の重症の疾患、例へば腹膜炎の様なものがあつたので、十二指腸蟲は唯其際偶然發見せられたものに過ぎなかつた、然し十二指腸蟲を驅除する爲めに多くの時日を費し、其間本病の治療を怠つた爲に本病の治療は手遲れとなり、今更驚いて其治療を始めても間に合はず、遂に不幸の結果を見るといふ様なことは決して稀ではないことであります。

それ故原因不明の貧血がありましたなら、必ず先づ大便の檢査をするといふことは最も大切なことであります。

容易に治癒する

此病氣は早く診斷がつき、適當な治療をすれば容易に治癒するものでありまして、決して危險な病氣ではありません、けれど、既に甚しき貧血を來し、身體著しく衰弱する場合に於きましては、決して油斷することの出來ないものであります。何となればその重症のものでありますれば、たとへ驅蟲療法を行ひましても遂に死を免るゝことの出來ぬ場合もあるからであります。

豫防法

此病氣の豫防法としては、成るべくその患者に近寄らす、殊に斯る患者と同居せぬ様にし、且手指は常に洗拭し、殊に食事の前には充分よく洗ふことが大切であります。

既に此病氣に罹つた時に之を驅除することは、必ず醫師の手によつてのみ行はるべきものであります。夫故患者は醫師の命ずる處に從つて治療を受ける外はありません。

治療法

十二指腸蟲の驅除法としては、種々なる藥劑が用ゐ

られて居りますけれど、「チモール」は最も廣く用ゐられ、且最よき藥劑と思はれます。これは頓服に與ふることもありますし、又持續的に分服せしむることもあります。

頓服藥として用ゐます場合には、普通前夜の晩餐を廢するか、又は晩餐後二時間位に蓖麻子油の一五・〇—二〇・〇を頓服せしめて全く腸の內容物を排除しまして、翌朝になりまして患者が饑渇を訴へますれば適宜の牛乳又は茶を與へたる後約二時間を經て、若し又患者が其必要を認めざれば何物も與へずして「チモール」劑を頓服せしめ、其後二時間を經て再び一五・〇—二〇・〇の硫酸「マグネシヤ」を與ふるものであります。持續療法としては「チモール」を一日三四回に分服し、一二週間或は尙久しく之を持續するものでありますけれど、此方法は患者を甚しく衰弱せしむることがありますから、成るべくならば頓服療法を行ふ方がよいかと思ひます。

其他綿馬越幾斯、「ヘノポチ」油、「チマトール」等も有効でありますけれど、此等は時として副作用を來すことがありますから大に注意せねばなりません。然し藥劑の選擇は凡て醫師の治療の範圍に屬するものでありますから、これは凡て醫師の命令に從ふ外はありませんけれど、醫師の選擇は患者の自由でありますから、成るべく危險でない療法に從ふ醫師を選び其治療を受けらるゝことが大切かと存じます。

貧血に對しては鐵劑、亞砒酸劑を用ゐ、其他滋養物により身體を強健ならしむることが最も緊要であります。

お多福風

小寺顯二郎

お多福風と申しますと誠に緣起の良い、目出度さうな病名でありますけれども、病氣に良い病氣といふものは無い。お多福風は、醫者の方では「ムンプス」又

流行性耳下腺炎と申すもので、名の如く耳の下に在るグリ〳〵が腫れて、所謂お多福といふ様な變な顏貌になるのが特徴であります。

この病氣の眞の原因は未だよく分かりませんが、兎に角傳染する病氣でありまして、五歳から十四五歳位の子供が侵されることが最も多い、而して通常一週乃至二週間で、自然に癒り、一度罹かれば所謂免疫になつて、もう二度と罹ることはありません。

斯様な輕くすむ病氣であるから何も事々しく言はずとも宜いやうなものでありますが、場合に依てはなかなか性質の惡い種々の餘病を惹起すことがあり、又お多福風に似て居つて實は、耳下腺の周圍の焮衝が本で、それから外觀上お多福風の様になることがあり、久しい間口腔に在つた病氣から續發的にお多福風の狀態になつて來ることもある。然るにお多福風といへば普通殆んど無害の病氣のやうに考へて居る所から、往々大事に至ることがありますから、只それを注意されるやうに、概略お多福風に就て申述べて置かうと思ふのであります。

既に前に申上げました通り、流行性耳下腺炎は直接若しくは間接に病人から、殊に口から傳染するものらしいのですが、耳下腺が最初から腫れるものか、但しは先に全身に病氣が起つて、その局處の症狀として耳下腺に炎症を起して來るのであらうかと云ふ點に就ては種々議論があつて、未だ判然して居りません。尙ほ亦耳下腺の外に顎下腺とか舌下腺とかいふものが同時に炎症を起して腫れることもあり、例外の場合には耳下腺は格別腫れずに、却て顎下腺や舌下腺だけが腫れるやうなこともあります。稀には睾丸及び副睾丸、乳房、卵巢などが炎症を起して腫れることがありまして、或人の說によりますと、小兒の時にお多福風に罹つて生殖器の發育を害し、その爲に將來子供の出來なくなるものが尠なくないと申しますから、これは餘程注意を要することゝ思ひます。その外又稀には腎臓炎、膵臓炎、心臓內膜炎心囊炎の如き重大な餘病を起すことがあるのみなら

ず、小兒は往々腦膜炎或は腹膜炎を起して死亡した例もありますから、お多福風とて決して侮るわけには參りません。

そこで耳下腺炎の起る模樣をお話致しますと、他家のお多福風に罹つてゐる子供と遊んで、傳染したと思はれる日から大凡二週間乃至三週間の潛伏期を過ぎますと、小兒は元氣が無くなり、食慾も減り、不機嫌になる、それから惡寒がすると言ひ、次で熱が出て參ります。尤も最初に熱が出ることもあります。そこで風を引いたらしいと云ふので一日一晩も經ますと、一方の耳の前と下の處が多少膨隆て來たのが目につく。それから段々頰にかけて前の方に腫が廣がり、下眼瞼の邊まで參ります。又下の方は頸或は更に下の方までも腫れて參ります。斯樣に腫大て來ると間もなく、或は殆んど同時に他側の耳下腺も同じ樣に腫大まして、玆に所謂お多福風と稱せられるやうな一種特異な顏貌を呈することゝなるのであります。而して通常三十八度乃至三十九度位の熱が二三日間續きます。

耳下腺炎は斯樣に甚しく顏を膨らしますけれども、他の腫瘍のやうに其部分が赤くなると云ふことは無い。若し赤くなつて來れば、それは化膿する場合でありますが、化膿することは甚だ稀である。疼痛は多少ある。殊に口を開くとき、物を咀嚼むときに一種不快な疼痛を覺ゆるものであります。

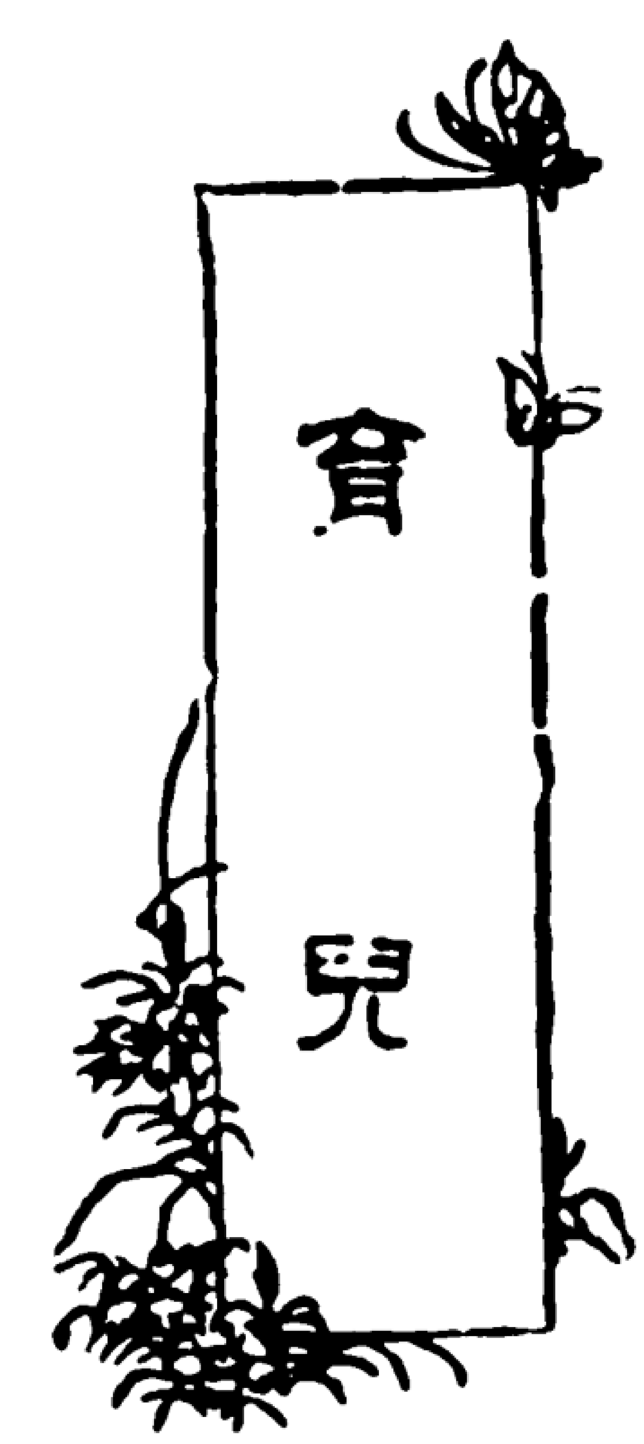
耳下腺炎は通常一側なれば五日か一週間、兩側なれば十日乃至十二日位で自然に消退て了ふものでありまして、熱も大抵最初の二三日位で去つて了ふのであります。轉位性の耳下腺炎と申しまして窒扶斯痘瘡、其他の急性發疹病の如き傳染病の時に往々起る所の耳下腺炎は勿論遙かに性質が惡い、併しこの場合には普通のお多福風でないと云ふことは直ぐ分かります。然るに齒槽骨膜炎とか淋巴腺炎などといふものは、何かすると一時お多福風と誤まられ、又反對にお多福風を齒槽骨膜炎、淋巴腺炎、或は結締織膿瘍などゝ誤られることがあります。現に私は先

日このお多福風に罹りまして、最初は全く齒の爲めだとばかり思つたのであります。それで實は玆にお多福風の事を書いて見ようと云ふ氣になつたわけであります。斯樣な因緣があるのでありますから、自分自身の經驗をお話して皆樣の御參考に供し度いと思ひます。それは斯うなのです。私は下顎右側の第一小臼齒が久しい以前から病氣に罹つて、遂に齒槽膿漏を起して居つたのでありました。それで先日もその齒の裏側の齒齦が腫れて、膿を持つたことは承知して居りましたが、非常に多忙の際なので齒科醫を訪問することが出來ず、一二日放つて置きました然るに齒齦の腫が引かぬのみならず、右の顎の下の腺が少し腫れて來たのであります。それでこれは全く齒の爲めであると思ふて、自分で鏡を見ながら齒齦を切開して多少膿を漏らしましたが、顎下腺の腫脹は益々著しく、幾分疼痛を覺えるやうになりましたので、顎の下に破れるやうになつてはかなはぬ、切開が充分でないのみならず、元來齒槽膿漏で動搖して用をなさず、却て種々の不快なる危險を伴ふてゐる齒であるから、寧ろ直ちに拔齒する方が宜いと考へまして、齒科醫に賴みますと、拔齒するのは宜しいが、今は隨分周圍の炎症が激しいので、拔齒した後の疼痛が甚しからうと思ふから一日二日見合はせた方がよからうと云ふことでありました。併し何分顎下腺の腫脹が氣になりますので、疼痛は我慢するから、無理にも拔いてもらいたいと云ふて遂に拔齒してもらひました。齒科醫の言ふ通りその拔いた跡はなか〳〵痛う御座いました。午前十一時頃に拔齒して、その後頻りに含嗽をして居りましたが夕方迄疼痛がありました。併しこれで顎下腺の腫脹も消退ことゝ思ふて居りました所が、翌日は一層腫脹が增して、疼痛も幾らか增したやうであります。のみならず頰の方も多少腫れて、耳下腺の部分を壓して疼痛がある、殊に物を咀嚼する時に耳下腺の部分に一種不快な鈍痛を覺ゆるやうになりました。併しそれでも未だお多福風とは氣がつきません。唯何

うも變なことであると思ふて、罨法などを致して居りましたが、其日の暮方から何となく氣分が惡く、幾らか惡寒がするやうに覺えました、而して夜の十時頃になりますと大分熱が出たやうに感じますので檢溫して見ると三十八度六分ある。翌日になりますと、今度は左側の顎下腺も耳下腺も同時に腫れて參りました、こゝに至て初めて、お多福風であつたことの診斷がついて、規則通り二週間程の經過で漸く無事に治癒致しました。これは第一に齲齒があつた爲に、特に耳下腺よりも顎下腺が先に腫れ出した爲めに、又小兒で無い爲に且つ小兒のやうに眞のお多福らしく腫大ない爲に迷はされたのであります。斯樣な事がありますから、大人の方も御注意を願い度い。

耳下腺炎は普通格別惡性の病氣といふでもなく、暫時の經過で自然に治癒し、且つ一度罹れば免疫になつて了ふものであるから、別に豫防法の必要は無いといふ人が多いのであります。然しこれは小兒の體質、その流行時の病勢等に依てもう少し考へなければならぬ事と思ひます。例へば所謂腺病質の小兒と云ふて、皮膚が蒼白く、頸が細くてグリ〳〵があつて、全體にブク〳〵した、締の無いやうな虛弱な小兒は、お多福風の流行する時には、出來るだけ、その傳染を豫防しなければなりません。斯樣な小兒は通常の小兒ならば何でもない病氣に由ても甚しい害を招くものであります。即ち斯樣な小兒は、耳下腺炎に罹つた後で、周圍の淋巴腺の腫脹が永く殘つてそれが結核のやうに乾酪變性などと云ふ變化を起し甚しく身體を害するやうな事になるものであります。その他耳下腺炎から耳の病氣を惹起し、遂に聾になるやうな場合もあります。尙は前に擧げましたやうな腎臟炎、膵臟炎、腹膜炎、腦膜炎、心囊炎、殊に睾丸炎などと云ふ危險な餘病を發することもありますから、その流行時の病勢に注意して、性質の惡いやうな時には、特に小兒の傳染を豫防するやうに氣をつけなければなりません。

耳下腺炎の豫防法とて、勿論特別の方法もありませんが、流行時には成るべく他の小兒の群集する處にやらぬやうに、家庭に於て一人の小兒が耳下腺炎に罹つたならば嚴重に他の兄弟から隔離することであります。但しお多福風は比較的早くから傳染するものらしいので、多數の兄弟中の一名か罹つた場合に他の兄弟に傳染せしめぬやうに豫防することは困難しいやうであります。而してその傳染期間は、腺が腫れ始めてから約三週間續くと云はれて居ります。既にお多福風を發してからは、治療を施しても別に效が無い、經過を短くすると云ふことも出來ないやうであります。それでお多福風に罹りましたならば先づ熱のある間だけは嚴重に牀に就かしめて、食物は刺戟の無い流動性の食物とし、便通を良くし、頬の腫れた處は只脂を塗つて綿を貼て置くか或は醋酸礬土水で罨法を致します。併し冷罨法を致しましても他の腫物と異つて少しも效能が無いやうです。若し腫脹が退きにくいやうな場合、又疼痛が激しいとか、熱が高いとか、其他の惡い症狀が現はれる時には、醫師の治療を受くべきこと勿論であります。



小兒期に於ける低能の鑑識

醫學士　藤井秀旭

小兒期に於いて二つの慢性の精神障碍があつて、それが實際上大なる意味を有するものがある。其の一は所謂精神病的體質(病的の精神素質)であつて其の二は先天性低能である。而して二つの間には劃然たる區別がある。先天性低能には所謂知識缺陷の存することが特徴である。即ち記憶、概念形成、判斷力

の發達が不充分であつて、精神病的體質に在つては此等が普通に發達して居て、感情生活の病的障碍病的思慮、時としては五官の錯覺が主として來るものである。

低能兒は見たり、聞いたりしたものを記憶しない、何を習つても皆な忘れてしまふ。ピチー、シモンの知識の見分け方で三歲の普通兒童は一五とか二六とか二桁の數字を眞似ねて數ふることが出來、四歲になつて始めて一二六とか三五八とかの三桁の數が數へられ、七歲の小兒の四分の三は一三五七六とか五桁の數を眞似ねることが出來るものであるが、低能兒には五桁の數が眞似が出來ないのである。斯くの如く記憶の障碍が現はれて來る。次に概念を形くることが障碍される卽ち普通の小供であつて見れば、鵞鳥や、鷄や、雀など見て、而して「鳥」といふ概念を形くり、色々の物體で赤い色を見ては、「赤」といふ概念を形くり得るものである。多くの低能兒に在つては此の簡單な概念をも形くり得ないのである。況んや複雜した抽象的な財產とか、義務とか、不正とかいふ樣なことは到底わからぬのである。第三には判斷能力若しくは綜合能力が障碍される。例へば今やつと二十までを數ふることの出來る十二歲の低能兒に私が一つの問ひを出して、「私は一つの數を考へてゐる、それに二を加へると十二になる。私の考へて居る數は幾つであらう」と云ひますと小供は答へることが出來ぬ。小兒は一〇＋二を正しく計算することが出來るのであるが、此の簡單な問題を解くに其の知識を應用せんとする判斷若しくは綜合能力を持たないのである。

精神病的の素質を持つた小兒には此等の障碍を見ないのである。數量的には智力は全く正常に發達してゐるのであるが唯精神能力が性質的に障碍されてゐるのである。卽ち其の感情生活が病的に興奮し易すく其の思索が空想に走せ、加之狂つた觀念となつて現はれるのである。

先天性低能竝に精神病的體質は世人の考ふる以上屢

屢見る所のものである。兩者は適當の處置さへ施さば、非常によく輕快するものである。加之一部は治癒し得るものである。治療の奏效如何は小兒の病的狀態を早期に見つけ、而して早期に適當の療法を施すや否によりて定まるのである。夫れ故當に醫者ばかりでなく兩親及び敎員が此の病氣の症狀を多少心得て居られることが必要である。此の故に玆には素人の方々にもわかる程度の重要な症狀を述べて之れを說明しやうと思ひます。これによりて自分の愛兒の幸福を贏ち得られるのである。但し玆には先づ先天性低能の一群に限り、他の所謂精神病的體質(智力の缺陷を伴はざる病的精神的素質)の一群は他日に讓ることに致します。

然らば先天性低能兒に於て既に其の第一年に於て如何なる身體的及び精神的變化を見るか。

此の問ひに答ふる前に、第二、二つの前提が入用である。卽ち分娩間もなく若しくは生後一年の間に於て甚麽原因かによりて(例へば腦膜炎)低能が起つた場合之れをも先天性低能の內に加算して論ずる方がよいと思ふ。何となれば生後幾何もなくして得たる後天性低能の症狀は全く先天性低能の夫れと一致するからである。此の二つの場合に腦の正常の發育に障碍若しくは阻害が起つて來る。第二に兩親及び敎員は總て御話致しまする症狀が如何なる原因によつて起るかに注意しなければならぬといふことを前以て申上げて置きます。其の屢々來る原因は遺傳である。例へば酒毒の如きものである。癲癇、精神病或は父氏の黴毒、其の他分娩の異常經過例へば鉗子分娩、時間の長引けること、早產の如きそれである其の他墜落或は打撲による頭部外傷殊に頭部振盪であつて、それが殊に腦振盪の症狀(人事不省及び嘔吐)と一緒に來る場合、佝僂病卽ち英吉利病、第一年に於ける飲酒、最後に重症な急性傳染病例へば「チフス」、「チフテリー」、猩紅熱等である。此等の原因の存する場合には、殊に正確に兒童の身體的及び精神的發育を觀察して低能の症狀探求に努力せねばな

らぬ。
症狀の内先づ身體的症狀より始むれば、素人目にもつき易いのは身體の外形の變化である。低能兒には啻に脳髓の發育のみならず、甚だ屢く附隨の身體發育が阻止若しくは障碍される。從つて身體各所の色色の畸形や變形が出來る、されば頭蓋が異常の形を呈し來るのは想像し難いことでないのである。脳頭蓋の場合に於ては脳の發育の病的障碍によつて夫れが直接御相伴することは自ら明かである。脳頭蓋の變形は唯數量的であり得る。即ち脳頭蓋が小さ過ぎるか、大き過ぎるかである。小さ過ぎるとき之れを小頭といひ、大き過ぎるとき之れを大頭と名ける。普通の頭圍は平均、生後一ケ月の終には約三十六「センチメートル」、第一年の終りには約四十五仙迷、第二年の終には約四十八仙迷、第五年の終りには約五十仙迷を算する。此の測定には唯簡單な「メートル」卷尺があれば事足るのである。之れを測るには前方では眉の直ぐ上方、後ろでは後頭結節と稱する飛び出た部分をかけて測るのである。前述の標準數と半仙迷や一仙迷差異があつたとて何等意味がないのである。何となれば正常な即ち非低能兒に於ても頭圍は常に正確に一緒でなく、却て或る範圍内にて動搖する。然し前述の數に非常な差異のある場合には通常異常と見做し、少くとも低能の疑を挾さまねばならぬ。小頭の場合には其の頭圍が尋常のものより四・五仙迷も少ない。ヘレ子、ヘッケルといふ異常に小さい頭の女は學問的の記載によつて有名なものであるが、其の八歳の時に二十八仙迷半であつたとの事である。斯かる小頭の場合に於て、甚しき變形により若しくは炎性機轉により脳が其の發育を停止し從て小さい儘で居ることが考へられ、又證明されるのである。而して頭蓋が此の小さい脳髓に適合して同じく發育を阻止するも考へられ、證明されるのである。稀れには頭蓋縫合が早期に化骨し或は母胎内で、母の骨盤の壓力で頭蓋が其の發育を障碍し其の爲め脳が御相伴をすることもある。

腦頭蓋の異常に大きいもの卽ち大頭は極めて多く見る所のものである。これは異常に大きな腦質の爲めでなく、通常腦內に異常に水が貯積つたのである。殊に所謂腦腔內には先天性低能に於て大量の液體を見る。普通の小兒に在つては其の分量は高々四十乃至六十立方仙迷であるが、低能兒に於ては二百、五百若しくは千立方仙迷も見るのである。或る有名になつた一例にては剖檢によつて二十立を見出したのである。斯る場合には頭蓋が素敵に大きくなつて居るだらうとは皆樣の想像せられることでせう。腦實質は此の所謂水頭若しくは腦水腫に於ては一部は敗滅に歸し或は全く發育しないのである。甚しいものになると其の腦が宛然頭巾の樣な形になつて其の厚さが漸く三立方仙迷のものとあつたとの事である。此の異常の液體蓄積は炎性機轉(腦膜炎等)により或は物質代謝障碍(遺傳黴毒、英吉利病等)によりて起るものである。此の大頭の場合、頭蓋の大きくなるは何所も平等である之れを風船頭蓋といふ名をつける時としては唯頭蓋の一部例へば前額若しくは後頭が異常に飛び出すことがある。日本には裏日本以外には稀れに見る所の佝僂病などでは一種特有な四角な頭形を見ることがある。素人には又屢々鼻根の廣くなつて居るのが目立つことがある。內眼角の距離が健康人より大なる爲めである。

(以下次號)

哺乳兒看護法 (承前)

園守白藏

小兒の痙攣及び其豫防

若し幼兒が痙攣を起す、卽ちひきつける時には、何うして痙攣が起つたかと云ふ、その原因を出來るだけ精しく調べて見なければなりません。母親の乳で育てゝゐる小兒は、概して牛乳などを以て人工榮養で育てゝゐる小兒よりも痙攣を起すやうな事は少ないものでありますが、乳を與へる人の精神感動や消

化膿劑、其他種々の事が、小兒の方に影響を及ぼすと稱せられて居ります。これは世間の人が信じて居るほどの甚しい影響はあるとも思はれませんが、多少關係はあるやうであります。それから小兒が胃を惡くしたとか、便祕して居るとか或は下痢した場合などには容易に痙攣を起すと云ふことは、看護に從事する人々のよく承知して居る事柄であります。それで普通世間でも小兒のヒキツケは左程不思議な事でもなく、又如何とも致し方の無い運命の如く考へて居ります。

然し幸にも此等の痙攣は、腦の病氣の爲に起ることは割合に少ないものであります。尙ほ痙攣は、痲疹猩紅熱、疱瘡、實扶的里、窒扶斯、肺炎、吐瀉、百日咳の如き熱性病の始めに起ることがあり、又佝僂病や生齒困難の場合に起ることが多い。それから餘り熱いお湯をつかはせて痙攣を起すことがあります。兎に角看護婦は斯樣な場合には是非醫師を招ぐやうに勸めなければなりません。

獨逸國あたりでも、二三の地方に於ては、この痙攣の爲に隨分多くの小兒が死亡する處があるやうであります。さう云ふ澤山小兒の死亡する土地では、百姓やその他の勞働者の女どもゝ段々自分で乳を飲ませる風が廢つて來たと云ふ事であります。さうしてこれらの土地では牛乳が安くて、且つ都會の如く牛乳に混ぜものなんど爲ることはない。誠に良い牛乳に事缺かぬのに、奇妙に牛乳を小兒に與へぬと云ふ事であります。つまり何處に於きましても、乳兒の榮養法が不適當であれば、痙攣を起す事も從て多い譯であります。榮養法が間違て居れば小兒は嘔吐、下痢、噯氣を起し、腹が膨れて、手や足が瘦せて遂に痙攣を起して死ぬと云ふやうなことに成るのであります。

若し小兒が妙に泣き笑ひをするやうな顏付きをしたり、手や足を顫はしたり、ひどく物怖ぢをしたり、身體を縮めたりするやうな痙攣發作の輕い兆候が屢屢認められるやうな場合には充分食物の誤まりを正

すやうに注意し、小兒榮養法の教ゆる所に從ふやうに氣をつけねばなりません。かやうな輕い痙攣は大抵吐くか、噯氣をするか或は固い糞便が出れば、その氣遣はしげな狀態も忽ち失くなつてしまふものであります。

かやうな場合に即坐の手當としましては、單純に灌腸を施し、列氏二十六度位の微温湯に入れて冷水を灌ぎ、温い燒酎を身體に塗り、脚を摩擦し、頭や顏が紅くなつて居れば冷水に浸してよく絞ぼつた手拭を以て冷罨法を施し、十分間毎に取り代へてやる事であります。

（以下次號）

家庭衞生

凍傷豫防法

ドクトル　G. K. 生

そろ〳〵本年も「シモヤケ」が始まる季節になつて來た。「シモヤケ」や「アカギレ」に罹るものは大抵毎年これに苦しむものである。これと云ふのも畢竟凍傷に罹り易い體質のものがあり、又その職業、一般の生活法が凍傷に冒され易いのである。即ち心臟の力の弱いもの、その働きの充分でないもの、又貧血して居るもの、一體に皮膚の軟弱なもの、特に腺病質の小兒は凍傷に罹り易い。それから健康な體質のものであつても、兵士であるとか、電車の車掌、運轉手と云ふやうな外の寒い空氣にさらされる人は、何

うしても凍傷に罹り易い。臺所の水仕事、拭掃除などをする女中さん、それから洗濯する女などは、強壯であつても、その職業上凍傷に罹るのである。斯様に體質の薄弱な爲めに、又は職業上の關係から一度凍傷に罹ると、手なり足なり、その部分の組織が害されて、なか〳〵恢復し難いもので、「シモヤケ」が、皮膚の軟い所は潰れ、硬い所は「アカギレ」となり、容易に治癒らない。而して毎年同じ部分が侵される。

凍傷に罹つてからは、その程度によりて種々様々の療法も藥もあるが、兎に角まだ凍傷に罹らぬ今日此頃の用心が一番肝要である。

今も云ふ通り皮膚が軟弱で、血液の循環が不完全で寒氣に觸れ、殊に水いじりする者が侵され易いのであるから、體質の弱いものは、先づその體質から改めることが根本的の豫防法である。卽ち貧血して居る者、又腺病質の小兒などは、醫師の診察を受けてよく養生法を聞いて、その處方に從つて、肝油を與へるとか又適當な鐵劑、沃度劑又は砒素劑なども服用し、冷水摩擦のやうな適當な水治療法に依つて皮膚や神經を丈夫にし、又は海水浴を行ふと云ふやうな手段をとらなければならぬ。つまり體質を改良し血液の循環をよくし、皮膚や神經を強健にして全身を強壯にすれば、自然凍傷にも罹らなくなるのである。但し斯様な事は、寒くなつたからと云ふて、今急に始めても直ぐ效果の現はれるものではないから、それは平素より心掛けて、絶えず身體の改造に努めなければならぬ。併し始めるのは今日から始めて差支がない、氣候が暖かになつて、凍傷が全く治癒するのを待つて養生をし始める必要はない。既に凍傷に罹つてからでも宜しい、一刻も早く養生に著手する方が利益である。實際又凍傷が甚しくなつて、種々の塗布藥や膏藥をつけても治癒りにくい場合に只今述べたやうな内服藥をしたり、其他一般の養生法を守らしめると著しく效驗の顯はれて來るのを見ることがあるから、體質改善の方法は何時から

始めると云ふことはない。今の今から行るが宜しい。然し元來體質の弱いもの、特に小兒に於ては、寒くなつてから急に全身の冷水摩擦を始めるやうな事は考へものである。それも完全に煖室法の適宜に行へる西洋室のやうな處で、醫者が年齢體質等を顧慮して、精密な監督の下に試みるのならば宜しいが不完全な構造の湯殿や、障子の隙間、縁の下からも無遠慮に寒風の吹込む普通の日本室内で、虚弱な小兒を強固にしようとて冷水摩擦を勵行するのは、寧ろ危險である。それよりも今まで放置してあつたものならば、止むを得ず矢張著物を暖かに著せ……と云ふて運動を妨げて不活潑にしてはならぬ……手袋、足袋又は耳覆と云ふやうな物を用ゐさせて寒を防ぐより外に仕方がない。併し斯樣な防寒具は今年だけと決心して、來年の冬からは全く強健な身體となつて、寒中裸體でも過せる程のものになると云ふ覺悟が必要である。兎に角小兒、老人及び特に寒氣にさらされる職業の者にとりては、凍傷豫防の爲めに適當の防寒具は必要であるが、これも過ぎては却て害がある。又手袋や足袋の窮屈なものは、手足を緊迫て血液の循環を妨げるから宜しくない。又不潔な足袋は、その塵埃や垢の爲に濕氣を帶びて、凍傷を起し易くなるから、小兒の足袋は餘程注意して清潔にして置かなければならぬ。

次に水仕事をする人は、仕事を終へたならば、清潔な水で充分手を洗ひ、特によく水の中で手を手で摩擦し、それから乾燥した手拭で少しも濕氣の無いやうに拭き乾かし、豚の脂肪でも何でも宜いから脂肪を少し擦り込む、動物性の脂肪でなくとも「ワゼリン」のやうなものでも差支はない、兎に角油を擦込めばよい。尚ほ寒い處から暖かい室内に入る時には直ぐ火鉢にかぢりつくことは宜しくない。先づその冷えて居る耳や鼻や手などを、よく摩擦して、末梢血管が普通の狀態に恢復してから徐ろに暖まるやうにしなければならぬ。

毎日溫浴することは全身の爲めにも凍傷豫防の爲に

も宜しいことであるが、餘り石鹼を使ふことは凍傷豫防の爲めに面白くない、特別に皮膚に脂肪の多い人や、特別に手足の不潔になる仕事をする人は格別であるが、普通の人、殊に皮膚の乾燥する凍傷に罹り易い人は矢張糠を用ゐた方が良い、それでなければ湯から上つてよく、拭乾かした後に、何か脂肪を少しく擦込むことが必要である。石鹼も「アルカリ」性の弱い、軟い石鹼を用ゐるのが宜しいが、通常石鹼の性質を鑑識することは一寸六ケしい、併し普通評判の善い石鹼は、先づ〳〵大抵善い石鹼としなければならぬ。

若し凍傷が起りそうな模様が見えたならば、その部分を清潔に洗つて、よく拭き乾かし、樟脳「ワゼリン」のやうなものを塗つて、冷さぬやうに大事にして置けば防げる。

今凍傷豫防藥として最も普通に用ゐられ、又實際效能の顯著なるベルツ水の處方を左に紹介して置く。

苛性加里	〇・五
酒精	二〇・〇
「グリセリン」	二〇・〇
水	六〇・〇

鬼やらひ

高峯博

としのうちに春は來にけり一歳を去年とやいはむ今年とやいはむ(古今集)。

と、在原元方も「ふる年に春立ちける日よめる」が如く、古來、太陰暦の上では、お正月と立春とが、まま前後したものですから、隨つて其の行事の上にも日時に錯誤を生じたものらしい。例へば初夢といふのは、もと節分の夜の夢を指したもので、西行法師も「立春の朝よみける」とて、

年暮れぬ春來べしとは思ひねに、まさしく見えてかなふ初夢(山家集)。

と申してゐるのでも分りますが、江戸時代にはお正月に見るのを初夢といふやうになつた。柳亭種彦は其の田舍源氏第三十一編の序に「寶船、江戸は正月二日なれど、京は節分の夜にてあれば云々」と書いて居りますから、此の時代、卽、今から約八十年前の頃も、まだ京都では節分の夜の夢を初夢としてゐたが、江戸ではお正月のを初夢といふたことが分ります。初夢の事のみならず、追儺又は「鬼やらひ」の行事も日時に入れ違が出來たのであります。只今では、一般に節分、卽、年越の晩に「福は內、鬼は外」とて煎豆を打ち蒔きまして、この豆のことを鬼打豆と云ひますが、臥雲日件錄には「文安四年十二月二十二日、明日立春故及昏景每室散煎豆因唱鬼外福內四字」とあります。文安四年は今から丁度四百七十年前に當りますから此の呪文の由來も隨分古いらしい。併しまた各地方には其の風が多少異つてゐたものと見えて、宗長の紀行には、「大永六年十二月二十五日節分の夜、大豆をうつを聞きて、福は內へいり豆の今夜もてなしを拾ひ〳〵や鬼は出づらん、京には役おとしとて、年の數、錢を包みて乞食の夜行におとしてとらすることを思ひやりて云々」とあります。此の時、宗長は近江に旅行中でありましたから、之に據れば、京都の厄落しの風が近江邊では無かつたと見えます。大永六年は今から三百九十一年前であります。所が此の包み錢を落してやる風習は更に變じて、直接に乞食の手にやり、乞食は代りに何かおめでたい文句を唱へることゝなつた。卽、日本歲時記には「世俗に立春の前夜、乞人家々に行きて厄拂ひ〳〵と呼ぶ。其の翌年厄に當る人、錢を出して與ふれば祝詞を述べ、終りに鷄の鳴くまねをす、京都武城に殊に多し、鄙にもする所多し」とあるのがこれて、西鶴の大かゞみには「やあら目出度や鶴は千年龜は萬年、東方朔は九千歲と年越しの夜の厄拂ひが高聲、老の浪立、しきねの船の春に近づ

くを嚇き云々」と書き、又、寶倉には「年男におほせて大豆やかに、はやさせ、鬼はそと、福は内へと打ちはらひ、惡魔外道も西の海へとなやらふ」とあります。私の故鄕、奈良縣郡山では、只今でも「やつこ拂ひませう、やつこ拂ひませう」と呼んでくる。つまり「厄拂ひ」の訛で、これに一二錢をやれば「目出度いな〳〵、目出度いことで拂ふなら……」と云ふのが始りで、それからいろ〳〵お目出度さうな文句ばかりを竝べたてるのであります。要するに各地方で其の呼び聲や文句乃至其の風體に多少の相違はあるものゝ如く、長崎歳時記には「山伏同心者の輩貝を吹き鈴を振り或は錫杖振り立て、厄はらひ厄はらひと觸れありく、若し祓を賴む者は小包錢を與へ門先にて祓をなさしむ」と。これらで見ますると節分の夜には一方、豆蒔きして「鬼は外、福は内」へと唱へたと同時に、他方には乞食に小錢を與へて「厄拂ひ」といふ事をした。即、二つの所作が、比較的古くから行はれたのであります。――こゝで一寸言葉を插みますが、久鬼家では唱へ言を反對にして「福は外へ、鬼は内へ」と申す慣ださうで、これは確に覺えませぬけれど、嘗て私が人の左樣に話するを聞いた樣に思うてをります――さて更に昔は右の事は二つの行事ではなくして、しかも、除夜に行ふたのであります。即、追儺とて、もと宮中に取行はせられ、呼び聲も儺追ふ〳〵とて、いと悠長なものである。九百四十六年前に當る天祿二年師走晦日の事を、蜻蛉日記に左の如く記してあります。

月日は、さながら、追儺來ぬるとあれば、浚まし〳〵と思ひ恥づるもいみじきに、人は、童、大人ともいはず、儺追ふ〳〵と騷ぎのゝしるを云々」。

又紫式部日記の寬弘五年の大晦日の條には（九百九年前）。

「つごもりの夜、追儺はいと疾く果てぬれば、鐵漿つけなど、はかなきつくろひどもすとて、うちとけゐたるに云々」。

儺、日本に於ける追儺の始は、文武の御宇、天下大

に疫病が流行して、中々息まぬから行基菩薩が、支那の風をまねして、此のおまじなひを行うたに由るので、山崎寶積寺の縁起には「文武天皇慶雲三年丙午、天下大に疫す。醫藥呪術も得て之を治せず。宸襟安からず。行基菩薩奏して曰さく、儺禮を用ゐたまはゞ宜しく之を除くべけんさ。則言の如くして國泰安民を得たり云々(原文漢文)」と。慶雲三年は今より一千二百十一年前であります。また其の儀式の模様は公事根元に據るに「大舍人寮鬼面を蒙りて南殿の庭にあり。陰陽寮祭文を讀み、上卿以下之を追ふ殿上人桃の弓、蓬の矢を將つて之を射る。仙華門に入り、東の庭を經て瀧口の戸に出づ」(原文漢文)とありまして、つまり鬼の面をきた人を、おもちやの弓矢で射拂ふといふ儀式であります。其の他、後世には各州各地の寺々でもこの儀式を行ひ、東京では淺草の觀音樣で除夜より七日の間、追儺をした事は既に馬琴の俳諧歳時記に出てあります。即「江戸金龍山淺草寺にあり。今夜、參詣堂中に充つ乃ち初更の頃、鬼形の者一人堂外に出づ、又一人方相氏の假面を被りたるもの之を追うて堂を巡る後、除疫の札三千枚を撒して諸人に與ふ、參詣の人各爭ひ拾うて持かへりて自家の門戸に貼す」。勿論、馬琴の時代は、前述の如く、豆蒔きと、追儺と別々に行うたので、蓋し前者は民家にて、厄拂ひの呪とし、後者は宮中其の他大きな寺々で之を行うたものと見るべく、且、民家の鬼豆の方法は、追儺の儀式の轉化で、もつと簡單に通俗的になつたものでありませう。

然らば本家本元の支那に於いては如何。事文類聚に云く、「昔、顓頊氏に三子ありしが亡せて疫鬼となる。一は江水の中に居り、一は若水に居り、一は宮室の隅中に居りて小兒を驚かす。是を以て歳の十二月儺して以て宮中に索め、而て疫鬼を駈ること。かく三人の子供が死んで疫鬼となつたといふのは恐らくこれも一種の流行病であつたのでありませう。さて、之を祓ふ儀式は「熊の皮を蒙り、黄金の四目、玄衣

朱裳、戈を執り、盾を揚げて畏怖すべき也」とある鬼に角恐しい様子をしたものらしく、唐の王建の詩には、「金吾除夜儺名を進む。畫袴朱衣四隊にて行く」とあります。所で五雜俎には今、即、此の戯無し、但、畫鐘馗と燃爆竹（さぎてう）とあるのみとて、支那でもこの漢唐の風は後代に迄、其の儘には傳はらなかつたと見える。

併乍ら、諸姉よ、其の故實は如何にあれ、又其の日時が、除夜か節分の何れにあれ、今や斯かる迷信的の行事は追々廢れて行きますが、年々歳々人間の姿をした別種の鬼、透鐵砲を恐れぬ鬼が、必ず歳暮に來ることは忘れることは出來ませぬ。これに備ふる所あるは一に主婦たる者の心懸に依るのでありますが、更にまた疫鬼に取り憑かれざるだけの衞生思想もせひとも家庭の人になくてはならぬ。而て更に一段奥に、己が心の鬼を打ち拂ふだけの修養がなければならぬ。この最後の鬼が最大の強敵で、これさへ退くるを得るならば、おまじないには「福は外へ、鬼は内へ」と言ふても大丈夫、百鬼は這々の體で退散するに相違ないと信じます。

西洋料理三品

服部茂一

これは去る十二月三日お茶の水高等女學校附屬作樂館に於て私立大日本婦人衞生會の有志會員が催した料理講習會の際、試食後服部講師が當日の料理に就て、その調理法を説明されたものであります。

（一）ビーフカランデントマト　ソース

これは豚の挽肉二十五匁、牛の挽肉が六十目。若し豚が嫌ひならば牛の挽肉だけ八十目でも宜しい。併し豚を混せた方が味が輕い。それから卵一個、玉葱一個をみぢん切にし、「パン」粉大匙二杯、それに鹽と胡椒を少量加へ、摺鉢の中でよく摺り交せて置きます。又別に卵三個をゆがいて置く。而して俎板の

上に布巾をのせ、その上に前に摺り交せて置いた肉を半分だけ廣げまして、その上に茹卵子を二個のせそれを心にしてお鮨を卷くやうに卷き、兩端を絲でしつかり括り、その布巾の上から「バタ」を一面に塗り、服部式「パイ」皿の中に入れて燒きます。卽ちその「パイ」皿を「フライ」鍋に入れ、その上に服部式手輕天火をかぶせて、上火七分、下火三分で二分乃至四五分間燒きます。その程度は、上から指で觸つて見て少し緊張た感じのするのを適度と致します。そこで布巾を剝ぎ、それに又「バタ」を一面に薄く塗る布巾の外に「バタ」を塗つて置きます。而して元の如く「パイ」皿の中に入れて再び「フライ」鍋に入れ、上火六分、下火四分で十五分間程すると燒けますからそれを取り出して一個を四切にし、一人前に二個づつ盛り、「トマトソース」をかけて出します。「トマトソース」の拵へ方は前に申上げた筈であります。

右は卽席料理でありますが、普通これでは三時間以上は置けません、露が出て多少臭味が出ます。それで之を鄭寧にしますには、肉を求める時に、肉屋に命じて、繰返して二度挽かせる、而してそれに鹽と胡椒、卵、玉葱、「バタ」と「パン」粉とをよく混せて燒きます、肉屋で挽いて來たものを、もう二度程家で挽いて用ゐますならば夏でも四日位置かれます。布巾に入れて晒らすと長く持つわけであります。

（二）ローストビーフ、エッグス、サラダ

牛の精降「ロース」百五十目位大切で求めます。それに食鹽小匙二杯、胡椒小匙一杯を手の平で摺り込み或は「ホーク」のやうなものでポス／＼突込んでもみますと尚はよくしみ込みます。而して「サラダ」油大匙四杯、「ゼリー」酒四杯、甘味の葡萄酒二杯、砂糖小匙に山盛一杯、それに三晝夜浸して置いて使へば味も佳いのですが、十二時間で結構です、普通六時間以上ならば先づ宜しい。それから服部式「パイ」皿の中に「バタ」大匙一杯を入れ、その中に今の肉を露を切らずに入れて燒きます。今日のは一切三十匁づつで御座いました。その肉の上に「バタ」中匙一杯を

のせ、その「パイ」皿を「フライ」鍋の中に入れ、手輕天火をかぶせ、上火六分、下火四分で焼き、五六分間毎に「バタ」の無くなつた頃「バタ」小匙一杯宛を加へ三十分間位焼きます。

今日は、つけ合はせは、「エッグス」、「サラダ」に代へて筍と菠薐草に致しましたが、あの筍は罐詰ですけれども、時節なれば新しい筍を使ひます。その時には勿論ゆがかねばなりません。餘計な事のやうですが、本當の筍は昔は糠でゆがいた。昔は糠でゆがいて宜しかつたのですけれども、今日では不可ません斯う申すと一寸變に聞えますが、昔は米を搗くに石灰などを入れることは無かつたから宜しいが、今日では早く搗き上げる爲めに多少石灰を混せて搗きますので、顔を洗つたりするにも、特別に化粧糠と稱して石灰の混じらぬものを用ゐなければならぬやうな有様で、斯様な石灰の混じつてゐる糠を使つては口が荒れる虞があります。故に筍を茹るには昆布を使ひます。昆布も山出し昆布を用ゐる。尙ほ昆布は北海道のは惡い、大阪の昆布が良いのであります。それは何う云ふわけかと申しますと、昆布は北海道の物も大阪の物も同じ昆布でありますけれども、それを精製して味を美くすることは何うしても大阪でなければ出來ない。それは大阪には何十代も前から昆布の精製法を傳へて居る家がありまして、北海道でも上等の昆布を製するには是非大阪に賴まなければ出來ないと云ふことであります。

菠薐草は通常の如くゆがいて、鹽と砂糖と卵子を適當に混せ、よく混ざつたならば、それに「サラダ」油大匙三杯程少しづゝ混せ、芥子を加へる、勿論あくぬきしたものでなければなりません。筍は今日のは罐詰でしたから、只二つに切つて、これを附け合せにして出したのであります。「パン」は今日のは只「バタ」をつけて焼いただけです。

(三) 林檎

あれは林檎の皮をむいて、一寸鹽水につけて切る、林檎は固い酸味の強いものを選びます。上等にすれ

ば林檎一個づゝ心抜きでくり抜いて用ゐますが、今日は一個を三分して使ひました。それを水一合に砂糖二杯程入れて潰れぬ程に煮て、「ソース」は「メリケン」粉大匙一杯を一合の牛乳で溶き延ばし、砂糖大匙山盛一杯を加へ、(或は「コンデンスミルク」)、掻きまぜながら流し込み、「メリケン」粉に火の通つた頃卵一個、「レモン」液一二滴を加へて一寸かきまぜて火より下し、大匙に一つ程づゝ皿に盛り分け、その上に前の林檎を盛つて出します。(文責在記者)

抄録

理髪衛生

醫學士古瀬安俊述（兒童第一卷第八號）

古瀬學士は、兒童の理髪衛生と題して、理髪店は總ての階級、總ての年齢の男女が出入して居るので、從つて衛生方面に及ぼす影響も、その範圍が廣く且つ大なることを冒頭に、日本での理髪業の起原、西洋で理髪の起つた由來から、外科醫が兼業した事や日本の髪結ひ床の起原等面白き歴史上の事蹟を物語られた末、理髪衛生特に理髪店で傳染する病氣に就て左の如く述べられました。

一、如何なる害が存在するか

(イ)截髪疱疹(しらくも)　しらくもの多い土地は理髪衛生の不完全の證據で、秋田縣、福島縣が多いが、先年東京附近の板橋にも流行したことがあります。この病は一種の黴菌が、「バリカン」、「フケ」取等を中間にして媒介するので單に頭許りでなく顔及、鬚、爪等に傳染し、爪菌病と稱して爪がボロ／＼になることがあります。獨逸のジエール氏は此截髪疱疹を理髪病と稱して大に豫防方法を講じました。一般に髪が長いと傳染が少いのです。婦人に尠いのは此理由からであります。

(ロ)黴毒　これは中々危險で、或る私の知人の大學生が、理髪店で顔を剃つて貰つた時、額の中央の「ニ

キビ」から黴毒が入つた爲めに非常に苦しめられたが、これは此大學生の前に來た黴毒性の客を剃つた剃刀を消毒せずに使用した爲めであります。

(ハ)肺結核　我國で毎年十萬人近く死ぬ內、肺結核で八萬人死ぬさうです。警視廳の調べに依ると東京市の理髮師が毎年平均三百六十人餘り死ぬ故恰度一日平均一人の割合で、其內三分の一は肺結核で死ぬから、三日目に一人死は此病氣で死ぬ譯になるのです、卽ち理髮師に結核患者が多い證據であります、日本では餘り使用しないが、獨逸で一時用ひた、鬚刷毛は、結核菌傳染に危險として禁じました、併し日本で多く行つて居る蒸し「タオル」は尤も危險なもので蒸す温度位では、別に附著した結核菌は決して死ぬものではありません。

(ニ)膿疱瘡　此病は貧民兒に多いので、黄色をしたものが眼瞼に出來ます。一般に理髮の値段の易い家は、貧民兒が多く出入する故、注意する必要があると思ひます。

(ホ)濕疹　之れは澤山種類があるが、其內傳染するものは注意すべきであります。

(ヘ)疱疹(ニキビ)　普通の「ニキビ」は傳染せぬが痘狀の「ニキビ」は傳染します。

(ト)結節裂毛症　髮に節が出來て折れるので、之れは傳染の可否に就いて一時議論がありました。がベテルゼル博士は傳染と否との二種ありと稱へましたが、矢張り傳染に注意すべきであります。

(チ)鬼舐頭(奈羅坊主)　これは頭髮の外、眉、瞼毛等まで拔ける病であります。

(リ)トラホーム、(ヌ)頭風虱、(ル)癩病、(ヲ)丹毒　これは鼻及、耳の毛を剃る時病毒が入る事が多いのです、なるべくは耳や鼻は剃らぬ方が安全です。

二、如何なる經路を採つて傳染するか

(イ)理髮師の手　理髮師の手は不斷客の顏頭等に接觸する故第一の媒介物です。

(ロ)器具　剃、鋏、覆布、椅子、洗面器、「フケ」取、櫛等の凡ての器具を媒介として傳染します。

（八）室 掃除の行き届かぬ理髪店の部屋は矢張り媒介者となります。

（三） 如何にすれば豫防が出來るか

以上各病氣の媒介を豫防するには、第一に理髪師から始めねば駄目です、之れは出來る丈け健康診斷を行つて、少しく怪しいと思ふ者は全快する迄仕事に從事させぬのが安全です、然しなか／＼これは難しい事で、其間仕事をさせずに置くことは、生活方面の關係もあるので、鳥渡困ることゝ思ひます、何れにしても怪しいと思ふ場合は客の方で避けるのが尤も善い方法です、又理髪師の手を善く洗ふか否かに依つて非常に媒介に差があります、一人の客の仕事が濟んで一度手を洗つて、更に始める場合に又手を洗ふ樣にする理髪師は先づ安心して善いと思ひます其上消毒すれば、尚完全なことは云ふ迄もありません。仕事著の汚れたのを著てゐる樣では、其理髪店は凡ての衛生が駄目と判斷をしても善い位です、器具の消毒は尤も困難な仕事でそれは消毒劑などに金錢を要するので、つまり一定の時間中、消毒劑に入れておけるかといふ時間の問題と、此金の問題で、價を高くすれば客が來ない故、廉くすると、從つて消毒劑を省いて埋め合せを付けるといふことになるので、廉い理髪師は危險分子が多いのです、消毒劑は、石炭酸か、「リゾール」液を用ひますが、器具を其液に浸すか否かを見屆ける事が必要であります。

子供を理髮店へ遣る場合

さて子供を理髪店にやる場合は、以上の諸方面を親が充分見屆けて、彼處の家では先づ病人もなし、器具の消毒もやるし、仕事著も綺麗だし、といふ事が判つた後、手拭三本と、ふけ取りと、「ブラッシ」を持たせてやる事が尤も安全であります、手拭は頸に巻くのと、顔を拭ふ時に使用するのと、三本あれば充分であります、これ丈けの心添えをすれば先づ病氣は傳染しないと安心してもよいと思ひます。

婦人髮結ひは尤も危險

婦人の髮結ひは尤も危險です、それは病人の氣を晴

すために、よく床の上で髮結を呼んで、髮を結ひます、それを了ると更に髮結ひは他の客の家に廻るので、其時の仕事着も前に病人の家で用ひたものを其儘着て居るので、傳染性の病人でしたら、頗る危險のことで、恰も蠅の病毒を傳播させると同樣であります、一般に女の髮には油を用ひるので、消毒には困難であるが、一度曹達水で洗つて、更に消毒すれば、完全です、櫛も其通りですが曹達水で洗ふと折角の辷りを惡くするので、全く行ひませんが、これは麻を毛の樣にして櫛いて、櫛の齒を幾度も繰返して梳きますと、滑らかになります故、矢張り、曹達で洗ふ方がよいのです、婦人の髮に「フイトラ」といふ髮の先端が二つに分れて居る病氣は、髮結ひの櫛などから傳染する場合が多いのです。

要するに、理髮師や婦人髮結自身よりも先づ客の方で、消毒上、不完全や、設備が不潔の店へは全く行かぬ樣にすれば、勢ひ理髮店の方で衞生に注意して客を呼ぶことになるのです。



雜報

○醫師試驗に合格せる女子二十二名

第二回醫師試驗の受驗者八十八名、內男子三十六名、女子五十二名なりしが、男子の合格者は九名、女子の合格者は二十二名にして女子は何れも女子醫學專門學校の出身なりと云ふ、その氏名左の如し。

△村井しき(廿二)鳥取△武田春(廿四)北海道△田邊きく(廿二)神奈川△藤本京(廿二)兵庫縣△岡野サダコ(廿三)長崎△磯部友子(廿三)靜岡△金森鶴子(廿三)香川△渡邊ジュン(廿二)新潟△足立若葉(廿四)山形△河野タミ(廿八)愛媛△淺井竹子(廿二)長野△矢野よし(廿七)島根△佐藤公子(廿三)香川△三輪ちかへ(廿二)靜岡△木村タケ(廿六)神奈川△柳下むめ(廿三)東京△長岡政江(廿五)高知△西牧きみ代(廿四)長野△本田リウ(廿七)秋田△河野ヤエ(廿二)富山△杏フク三(廿)鹿兒島外一名。

○全國感化院長協議會

去る十一月六日より八日まで內務省に於て開かれた

る全國感化院長協議會に於て協議せられたる事項左の如し。

一、國立感化院收容兒童に關する件。
國立感化院創設の際之に收容すべき者は年齢十四歳以上にして犯罪行爲ありたる者に限り其地方感化院在院者に在ては在院期間一年を超へざる者を先にせんとす之に關する意見如何。

一、院生の入院及退院の手續に關する件。
(イ)院生を入院せしむるに當り入院命令を發するまでの取調は各府縣精粗一樣ならず又調査せしむる機關も區々一定せざるも入院命令は事頗重大なるを以て其調査事項を一定し且調査機關を定むるの要なきか之に對する各地取扱の實況竝に意見如何。
(ロ)退院に關する取扱の狀況如何。

三、院生の逃亡豫防に關する件。
院生の逃亡を豫防するに關し特別の施設をなし效果を擧げたる實例如何。

四、院生に課すべき實科の種類時間配當等に關する件、實科の種類及時間の配當を適切ならしめたるに依り感化教育上竝に退院後の獨立自營上效果を擧げたる實例如何。

五、假退院者の成績及其職業に關する件。
假退院中に於ける院生の保護方法及其職業の如何は感化上重要なる關係あり之に關する實況及意見如何。

六、不良少女の感化教育に關する件。
右に關する實況如何。

七、退院者の保護竝に其成績に關する件。
退院者の保護に關しては法令に規定する所なしと雖も感化の實を完からしむるには退院者の保護を爲すは最も必要なりと認む其の保護期間及保護の狀況如何。

○女の生れぬ村

助產之栞第二百五十七號に左の如き面白き記事ありたり。

亞米利加のカンサス州エムポリアから四哩ほど離れた小村では、此處九年間女兒が一人も生れないので、村民は此程其地方選出の代議士を通じて、政府に向つて自由自在に男でも女でも產むことの出來る、秘術を說いた確かな書物はないものか、若し無いならば至急專門家に命じて、研究させて頂きたいといふ無理な陳情をしたそうだ、抑もこの村は總計百八十二軒の家があつて、九年間に生れた子供は二百二十二人だが、揃も揃つて男ばかりで、女の子といへば九年前に生れたメリイリレイといふ娘が、天にも地にもたつた一人なので、今年はやつと九つになつたばかりなのに、婚約の申込が引きもきれず、婿の候補者が既に三百餘人に達せりと。

○衛生御文章

山口縣吉敷郡井關村書記片山市右衛門氏は白骨の御文をもぢりて衛生御文章なるものを作れり、全文左の如し。

衛生御文章

夫れ人間の不精なる相を熟らく〳〵觀ずるに、凡そ果かなきものは家居敗廻りの不潔なる一事なり、されば地方に於て未だ疫病の根絶へたりと云ふを聞かず病氣はやり易し今の儘では誰か無病の儘體を保ち得べきや、親やさき妻子やさき、我とも知れず人とも知れず「コレラ」、「チフス」に罹るもの朝の紫、夕の露よりも繁しと言へり、されば朝には達者息災のもの夕には病の牀に就く身なり、既に熱出で氣分惡く嘔吐、下痢を催しぬれば、二つの眼忽ち力を失ひ、一つの呼吸苦しくなり、強健空しく變じて氣勢次第に衰へぬれば、六親眷族集まりて歎き悲しめども更に其の甲斐あるべからず、さてしもあるべきことならねばとて遅れ〳〵て醫者を呼び漸く病院にかき入れて療治すれども手遅れのため病氣長引くか又は燒場に送られて夜半の煙と成るもの多し、哀れと云ふもなか〳〵に愚なり、されば日頃よりよく〳〵衛生に注意して、井戸浚へや掃除をよくし家に日光を導き病菌の撲滅に努め飲食物に氣を附け衛生講話にはなるべく隣家近所を誘ひ合はして出席し其の心得方を聽聞し人間一生の衛生法を悟り長生するを心掛けて役場や醫師を早く頼み參らせてよろしく身體の強健を保つべきものなりアナカシコ〳〵

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

同會は去る三日午前十時よりお茶の水高等女學校作樂館に於て開會、當日は都合により衛生講話を休み會員有志の料理講習をなし、服部茂一氏を講師として實地調理の後、會食、各品に就き服部氏の説明あり、終つて年始會其他の協議をなし午後四時散會せり。因に當日出席の役員氏名左の如し。

川村きよ子　小松いさ子　菊地容子　高木鎌子
山口貞子　滝田捨子　守屋千代子　三宅藤子
滝尾作子　小川孝子　中濱芳子　羽田三緒子
宮本樂子　松井正子　岡田德子　鳩山春子
岡山こし子　丹波貞子　（以上出席順）

○入會者

○高木鎌子紹介
赤坂區青山南町六丁目百十六　特別會員　米山春子

○小川孝子紹介
旅順朝日町二丁目二　特別會員　白須滿壽子

○轉居

山口縣より神戸市再度筋九十九へ　飯田和香子

婦人衛生雜誌（自第三二六號至第三三七號）目次

婦人衛生雜誌（自第三二六號至第三三七號）目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

抄錄

雜報

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 長谷川仲子
同 岡田徳子
同 高木鎌子
同 山木多穂子
同 三浦敬子
同 松平芳子

評議員 入澤常子
同 羽田三緒子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 原みつ子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多越子
同 緒方悦子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉岡彌生子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 武田貫子
同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵母堂 松井正子
同 古市幸子
同 小松いさ子
同 近藤憲子
同 天野多喜子
同 岸澄子
同 菊池峯子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

大正六年十二月十七日印刷
大正六年十二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 荘司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市本郷區駒込林町二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鍋屋町 眞明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百三十七號（大正六年十二月二十日發行）
明治四十三年十二月一日（第三種郵便物認可）

